

# ポジティブな行動支援(PBS)から始まる 長生っ子のキラキラ生き生きプロジェクト

～自分が好き！友達が好き！長生が大好き！～



## 長生小学校

### 1 はじめに

長生小学校は北に広大な田園が広がり、南に悠々と流れる桑野川と東に高くそびえる津乃峰山を眺めることができる。また、校門を入ったところの泉には付近の生活水とされてきた岩山の湧き水を引き、今なおその水が湧き出し続けている。学級は8学級で児童は105名が在籍し、教職員は15名の小規模校である。また、これまで「長生はひとつ」を理念として、学校・家庭・地域が一体となって人権教育を中心に質の高い教育活動を行ってきた。その結果、人権意識が高く日々の学校生活が充実している児童が多い。ただ、令和元年度末から長期間続くコロナ禍で、ネガティブなニュースがあふれ、これまで取り組んできた多くの体験活動が中止や延期を余儀なくされてきた。そして、多くの児童や教職員がその影響を受けて不安な毎日を送り、ストレスが高まっていた。

そこで、今年度は少しでも児童や教職員が安心して学校生活を送ることができるように、ポジティブな行動支援(Positive Behavior Supports: 以下PBS)を教育活動の柱にすることにした。さらに令和3年度から、全国でGIGAスクール構想がスタートして児童が一人一台のタブレットを持つようになり、また、今年度の夏から県内全ての学校ホームページがリニューアルされるようになった。これらのことから、PBS、GIGAスクール、ホームページの三つの内容をそれぞれ充実させながら、これらを相互に関連させることで、より高い相乗効果を発揮できると考え、本実践を行うことにした。

### 2 実践の目的

#### (1) PBSの実践

PBSを学校の教育活動全体で実践することで、全児童と全教職員の心をポジティブにする。そして、全員がキラキラ生き生きと学校生活を送り、心と体の健康をめざす。

#### (2) ICT環境の整備と積極的な活用

学校のICT環境を整えることでタブレットを

より積極的に活用してGIGAスクール化を進める。そして、教師と児童、家庭、地域とのコミュニケーションを円滑にする。

#### (3) ホームページや学校だよりを積極的に活用した情報発信

地域や学校の特色を活かした取組を進め、ホームページや学校だよりで積極的に地域に情報発信する。このことで、家庭や地域から信頼される学校や、地域全体の教育力の向上をめざす。

### 3 実践の概要

#### (1) PBSの実践

##### ① PBSの研修

夏休み明けからの実践をめざしてPBSについて次のような研修を重ねて行った。第1回から第3回までは長生小学校で行い、第4回は阿南市小学校生徒指導部会のZoom研修会に参加した。これらの研修によって、PBSの基礎から具体的な実践方法までを学んだ。

ア 第1回「小学校におけるPBS」、6月3日(木)総合教育センターの松本先生

イ 第2回「PBSの具体的目標の設定」、7月12日(月)総合教育センターの松本先生

ウ 第3回「トラウマに配慮した学校づくり」、8月19日(木)徳島大学の内海先生

エ 第4回「PBSを活用した学校づくり」、8月25日(水)大阪市立小学校の谷川先生



PBS研修の様子

## ② あいさつのいずみプロジェクトの実践

PBSのテーマは、本校で約10年以上前から実践している「あすそろ」運動の最初の文字の「あ」大きな声であいさつ」とした。そして、あいさつであふれる学校をめざして取り組むこととして、その名称を「あいさつのいずみプロジェクト」とした。

- ㊦ 大きな声であいさつ
- ㊧ スリッパをそろえる
- ㊨ だまってそうじ
- ㊩ ろうかは歩こう

### ア 計画立案

夏休みの後半から9月にかけて、研修主任と児童会役員が中心になって実践計画を立てた。

### イ プロジェクトのスタート

9月に全校児童へのお知らせをZoom集会で行った。その後、毎週金曜日に自分から朝のあいさつをしている児童の人数を調べ、あいさつの現状を集計した。最初の集計では17.6%だった。また、児童は自分からあいさつした回数を集計していった。

### ウ プロジェクトの深化

10月に望ましいあいさつの仕方を全校児童に伝えるために、人権放送委員会が給食の放送であいさつカードの感想を紹介した。また、イメージキャラクター「いずみちゃん」の考案やごほうびカードの制作を行った。

### エ プロジェクトの途中経過

11月に児童会役員がシナリオから練習まで自主的に行った「あいさつの劇」を全校集会で演じた。このときの動画をホームページに掲載している。また、階段の踊り場や職員室前の掲示板には「あいさつの劇」で使われたポスター、「あいさつのいずみ」、「いずみちゃん」等を掲示して全校児童に啓発した。

12月に全校朝会で、3か月間行ってきた

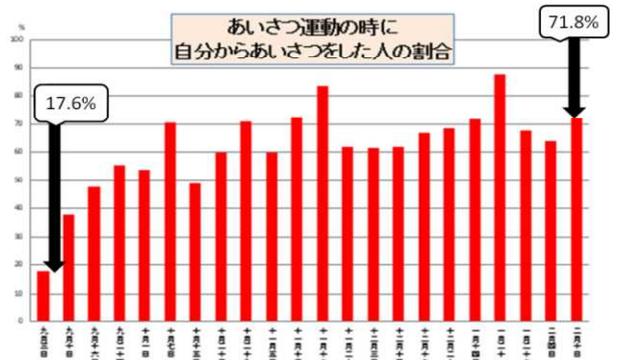


児童会によるあいさつの劇

あいさつの状況をグラフにして全校に紹介した。また、あいさつがよくできた人に本校オリジナルのごほうびカードを渡した。

### オ プロジェクトのまとめ

1月に次の集計やごほうびカードの準備を行った。2月にあいさつの状況の集計をしてグラフに追加した。児童会役員引き継ぎの際に「あいさつのいずみプロジェクト」の振り返りを行い、自分から朝のあいさつをしている児童は最終的に71.8%になった。



### カ プロジェクトのさらなる発展

人権放送委員会によりいろいろなあいさつをする「いずみちゃん」がポスターになって校内に掲示された。また、本校職員や子どもたちによる、「いずみちゃん」のイラストやマスコットが増えている。「いずみちゃん」を活用しながら「あいさつのいずみプロジェクト」をさらに発展させている。



ごほうびカードと「いずみちゃん」

## (2) ICT環境の整備と積極的な活用

### ① ICT環境の整備

教室のテレビは壁面に水平に取り付けられていたために、廊下側前方席の児童にとってはとても見にくい状態になっていた。教室のテレビ画面はタブレットの活用などの際によく使うために、テレビ取り付けアームを角度調節ができるタイプに取り替えた。

また、オンライン授業を実践するためにはタ

タブレットを教室内で自立させる必要があるためにタブレットスタンドを整備した。このことで担任は各教室でのオンライン授業が容易になった。このようにICT環境を少しずつ整備しながらGIGAスクール構想を進めている。



テレビ取り付けアームとスタンド

## ② 一人一台タブレットの積極的な活用

6月から教職員で研修を行いながら、児童にタブレットを配る準備を進めた。そして、試行錯誤を繰り返しながら様々な活用方法を研究している。

### ア タブレット活用方法の研修と配付準備

使用ルールや保険加入、使用方法の研修など、多くの準備が必要であったために、これらを慎重に行った。6月の下旬には児童一人に一台のタブレットを配ることができた。

### イ タブレットを活用した授業研究会の実施

担任の授業研究会の際には、必ずICT環境を活用した研究授業を実施した。7月1日には4年生で「メタモジクラスルーム」を活用した国語の授業を行った。以降12月まで、6年生の学級活動、3年生の図工、1年生の道徳、5年生の体育、2年生の算数と全てタブレットなどのICT機器を使った授業を行い、その後の授業研究会で活用方法等について検討した。



タブレットを活用した算数の授業

## ウ バーチャル授業参観

1月の授業参観が中止になった際に、4年生はバーチャル授業参観として、これまで総合で学習してきた内容や楽器演奏、ダンスの動画、習字や絵画等の作品などを自分のタブレットに取り込み、各家庭にタブレットを持ち帰って保護者と一緒に視聴した。各自のタブレットで視聴することで接続や個人情報のトラブルもなく、容易に学校での児童の様子を家庭に伝えることができた。

## エ オンライン授業の実施

1月下旬の新型コロナウイルス第6波の際には、タブレット内にある「メッセージ」や「Zoom」を活用して、オンラインで朝の会や授業を実践した。児童は自宅で規則正しく学習に取り組むことができた。

## ③ 夏や冬の「写真展」の実施

全校児童がタブレットを持ち帰り、夏休みや冬休み等に各家庭で写真を撮影した。個人情報を書さない等のルールのもと、撮影された画像を集めてホームページに「写真展」として掲載した。児童は個性的な写真を撮影していた。夏休み明けの作品展や授業参観の代案として実施した。

### 6年生の「冬を感じるもの」

投稿日時：8:00 長生小学校



冬の「写真展」

## (3) ホームページや学校だよりを積極的に活用した情報発信

### ① ホームページによる積極的な情報発信

今年度、県内公立学校の全ホームページがリニューアルされた。構成は各学校に任されていたので、長生小学校の特性を活かしたホームページを作り、8月1日から公開を始めた。スマートフォンに対応したシステムで、動画を公開することも可能になり、より見やすく多くの情報を発信できるようになった。積極的に情報を掲載することで、児童や保護者、地域の多くの方々が長生小学校に興味をもって見てくださっている。



本校ホームページのトップページ

② 学校だよりによる積極的な情報発信

ホームページの活動報告をおもに校長が書き、その記事を紙の「校長室だより」としてカラーで発行した。そのことにより、ホームページを見ることができない家族や地域の方々にも学校の情報を伝えやすくなった。また、校長室だよりとホームページをQRコードで連携させること等で、相乗的に情報をより詳しく、広く発信することができた。また、他の学校だよりもカラーで印刷することで、白黒印刷では分かりにくかった情報をより分かりやすく伝えることができた。



校長室だより

能な組織作りや研究体制が必要である。

(2) ICT環境の整備と積極的な活用

- ① 今年度のGIGAスクール構想を学校独自に推進する際に、学校の特性に合わせたICT環境の整備ができた。
- ② 自宅待機の際に児童がタブレットを活用した授業を受けたり、学級会を実施したりすることができた。また宿題を全員に配付することもできたために学習遅れの不安を軽減することができた。
- ③ 一人一台のタブレットの活用はまだまだ試行錯誤の部分があり、使用方法が確立できていない。有効な使用方法を常に模索していく必要がある。

(3) ホームページや学校だよりを積極的に活用した情報発信

- ① ホームページの内容を見直し、オリジナルなアイデアを生かしたページを作成することで、より閲覧しやすくなり閲覧者数が増加した。
- ② 「写真展」ではよく似た写真もあったが、それぞれ個性的な写真を撮ることができた。
- ③ 学校だよりとホームページを連携させることで、ホームページだけでは学校の情報を伝えにくい方々にもより伝えやすくなった。
- ④ これまで白黒で写真を印刷してきたが、内容が分かりにくかった。カラー印刷をすることで情報がより伝わりやすくなった。

(4) PBS, ICT, 情報発信の関連付け

- ① ホームページ上で児童の「写真展」などを実施することで、児童一人一台のタブレット活用の意欲を向上させた。
- ② PBSやGIGAスクールなどの学校での活動を常に発信することで、地域や保護者の学校に対する理解が深まり、安心感が向上した。

4 実践の成果と課題

(1) PBSの実践

- ① 児童が自らあいさつした回数から、数値的に明らかにあいさつの状況が向上した。
- ② あいさつの劇をしたりキャラクターを作ったりしながら、児童会や全教職員の意識が向上して、PBSの輪が広がった。
- ③ 年度が変わった際に実践が止まってしまうように、少しずつ改良を加えながら継続していくことが大切である。
- ④ PBSの実践を継続して行くための持続可

5 おわりに

これまで、本校での取組の一端を紹介したが、これからもPBSを学校の教育活動に取り入れながらポジティブに「自分が好き・友達が好き・長生が大好き」を合い言葉に、安心して学校生活を送ることができる学校をめざしていきたい。そして、家庭や地域との連携を深めながら、様々な体験や出会いを通して、自分やふるさとに誇りをもち、たくましく生きていくことのできる児童の育成をめざして、全教職員で心を一つにして取り組んでいきたい。